

慈雲寺

慈雲寺は十七世紀中頃、輪王寺の貫主(住職)になった高僧・晃海が、1654年に建立しました。慈雲寺の中には、“無限の光”“無限の寿命”を持つ仏「阿弥陀如来」と、晃海の師匠・天海大僧正（西暦 1536-1643）の仏像が祀られています。1902年の大洪水で当時の慈雲寺は丸ごと押し流されてしまい、1973年に再建されました。毎年7月14日には、輪王寺の僧侶が慈雲寺に集まり、先祖の霊を供養する行事・“盆まつり”の法要を行っています。